



さとう さとし
1957年3月8日生まれ、64歳。1975年宮城県築館高等学校卒業後に旧築館町採用。その後、教育部長、総務部長、副市長などを歴任し、2017年に退職。今年4月の市長選で初当選した。趣味は食べ歩き、ドライブ。座右の銘は「誠心誠意」。

佐藤智 栗原市長インタビュー

「笑顔が生まれるまち くりはら」を掲げ、今年4月の市長選挙で初当選した佐藤智市長に地域経済活性化に向けたまちづくりの展望や建設事業の方針などを聞いた。この中で佐藤市長は行政改革の重要性を強調。まちづくり事業については、開業30年を迎える「くりこま高原駅周辺の再開発」のほか、宅地造成などによる若年層の定住促進を推進する方針を示した。

くりこま高原駅周辺の再開発を見据えたまちづくりを

「就任の抱負をお願いします。」

佐藤 行政の効率化と健全財政の確立とともに、次世代を担う子どもたちを産み育てる環境整備や、若年層の人口増加に取り組んでいきます。栗原市が誕生して17年目になります。人口減少が深刻で、合併当初は8万人を超えていましたが、毎年1000人程度減少し、今では6万5000人になりました。若い世代の減少が著しいので、若年層の人口が増えないと財政への影響も大きい。財政的にはピーク時から30億円以上減少しています。そのような中でも、水準を落とすことなく住民サービスを提供する必要があります。そのためにも行政改革には積極的に取り組みたいです。合併当初には行政改革にはこれまでも取り組んできましたが、岩手・宮城内陸地震や東日本大震災などで緩やかになった。行政の効率化に向け、今一度取り組んでいきたいと思っています。財政改革についても、地方交付税の優遇措置が終了したため、財政的には厳しくなってきたので、ハード事業も縮小せざるを得ないと考えています。

「まちづくりの課題と展望は。」

佐藤 ハード面では、継続事業についてしっかりと検証し、必要の有無を判断したいと思っています。合併特例債が残り10年あるので、借入れが有効な事業があれば取り組みたいのですが、規模の縮小や見直しは避けられないでしょう。普通建設事業などは、国や県の補助金もうまく活用しながら、事業を推進したいと思っています。公民館整備事業な

どは既存施設との併用も検討しながら引き続き取り組んでいくつもりです。

くりこま高原駅は開業30年になります。開業以降景色が変わらない実態に寂しさもあるため、中核機能地域整備事業の一環として駅前の再開発について取り組んでいきたいですね。くりこま高原駅は、仙台への通勤圏だと認識しているため、そうした地の利を活かすためにも宅地開発を進めたい。駅周辺は商店街などを想定しているが、基本的には住宅地の整備として考えています。区画整理組合という手法も含めて、あらゆる方法を検討していきます。

また、若者を対象にした定住促進策として実施した宅地分譲が好評です。志波姫地区の市営住宅跡地などを活用し16区画分譲したところ完売となっています。今後、栗駒地区や金成地区などで10区画程度ずつ造成できると良いと思っています。人口増によって将来的な増収にもつなげていきたいです。

「3月に策定した国土強靱化地域計画のポイントを教えてください。」

佐藤 道路整備事業では、栗原東大橋や西部へのアクセス道路となる栗

原中央線道路整備などビッグプロジェクトを継続します。河川対策については、おとしの台風19号の際に丸森町にもボランティアで参加した際に、河川氾濫による被害の甚大さを痛感しました。栗原市でも支障木の撤去などは取り組んでいます。3年経てばまた元に戻ってしまうので、そうしたことも継続的に実施する必要があります。感じている。市の管理河川もあるので、そうした箇所は当然ながら、国や県の管理河川についても同様に対策を講じてもらう必要があると認識しています。治水や土砂対策は重要です。長沼ダムが完成した後に起きた大雨の際

若年層の定住促進へ環境整備を推進

に、越流せずダムの方へ水が流れていく様子を見た住民から「ようやく水害から解放される」と涙を流して話されていたことが特に印象的でした。中学校の大規模修繕や市営住宅の建て替えなども行います。さまざま

補助事業なども活用し、新たに予算措置をして順次対応していく予定です。公約に掲げた新規事業については、来年度以降に取り組んでいきます。

「国際リニアコライダ計画や企業誘致についてはどのような考えますか。」

佐藤 先日、I-LCについて一関市長と会談した際に、前向きに進むようだと話を聞いたので、近隣自治体の首長さんとも喜んだところです。この事業では、メンテナンスに相当数の業者が関係するそう、一部では「1万人規模のまちができる」との話があるくらい。実現した際の経済効果は当然ですが、雇用の創出だけではなく、近隣自治体では定住者が増えることにも期待していて、宮城県北地域にとっても核となり得る事業だと思います。工業団地についてはこれまで2カ所を整備しました。今後も既存の市有地や閉校となった校舎跡地などを活用し、企業誘致に取り組みたいと考えています。ただし、新たに整備するにはリスクも一部もあるため、工業団地整備には財政的な課題なども含め慎重に検討していきたいです。

「建設業界に向けてのメッセージを。」

佐藤 私は「地元の建設業が元氣じゃないと、栗原市も元氣じゃない」と考えていて、そのためには公共事業だけではなく、民間事業も請け負っていただき、活気付けてほしいと願っています。復興需要も落ち着いているので、大きな事業などは少なくなってきたのは事実ですが、可能な限り市内業者に仕事が回るように対応できればと思います。

昔とは違い、維持修繕などは起債事業として認められるものもあるので、そうしたものも活用していきたいと考えていて、経常経費の抑制は急務ですが、投資的経費については可能な限り維持していきたいです。ありがとうございました。

特定総合建設業
株式会社 佐藤工務所
代表取締役 佐藤 孝記
本社 〒987-2308 宮城県栗原市一迫真坂字畑中7-1
TEL.0228(52)2171~3 FAX.0228(52)2170
E-mail:k_sako_71@live.jp

ISO9001・14001認証取得
株式会社 晃和工業
代表取締役 千葉 政武
〒986-0805 宮城県石巻市大橋二丁目1-1
TEL.0225(96)6651 FAX.0225(96)6326
URL http://www.kowakogyo.com

Yurtec
株式会社 ユアテック
栗原営業所長 千葉 慎也
宮城県栗原市築館高田1丁目3番15号
TEL.0228(22)2273 FAX.0228(22)5720